

1 出題の意図

課題文は、白波瀬佐和子編『東大塾 これからの日本の人口と社会』（東京大学出版会、2019年）所収の玄田有史「希望 人口減少と労働問題」の一部抜粋である。筆者は、東京大学社会科学研究所に全所的プロジェクトの一つとして設置された希望学について研究している。希望学は経済学、社会学、政治学、歴史学などを総合し、社会における希望の意味、希望が社会に育まれる条件などを考察している。引用箇所では、地域づくりと地域における希望について絆を切り口に論じている。

課題文は主に前半と後半とに分かれる。前半は、地域づくりに求められる「幸福」と「希望」の両輪のアプローチについて、さらに強い結束でつながった「ストロングタイズ」と弱い関係ではあるが信頼でつながった「ウィークタイズ」の2つの絆が地域づくりに欠かせないことを述べている。そして筆者は「ストロングタイズ」は幸福の源泉に、「ウィークタイズ」は希望の原動力になると述べる。後半は、「ウィークタイズ」が表現する緩やかな信頼関係は地域内でも欠かせないことを、東日本大震災発災時における岩手県釜石市での経験を引き合いに出し述べている。

設問に際しては、こうした筆者の主張を、前後の文脈から読み取る読解力やその要約力を問う（問1～3）とともに、受験生のこれまでの社会に関する学習を反映した論理展開力を問う（問3）出題としている。

全国から本学本学科を志望する受験生の中には、我が国が進む人口減少・少子高齢化、地方からの若者の転出等を背景にした故郷の変化に問題意識を持って臨んだ者も多いと思われる。課題文の主張は、私たちに地域づくりにおける必要な視点を、さらには国内だけでなく、海外と我が国との関係づくりにも示唆を与えるものであろう。

2 評価のポイント

問1

問1は、読解問題である。「幸福、そして希望を考えることは、住民で話し合いながら、どのような地域をつくっていくのかを考える際に、一つのヒントを与えてくれます」と筆者が主張する理由を説明するものである。「幸福」と「希望」、それぞれが地域づくりに果たす役割について説明が求められる。

よって評価のポイントは、(1)「幸福」について、(2)「希望」についての2点が説明できているかということになる。

問2

問2も読解問題である。「これからは伝統的なストロングタイズの関係を守りつつ、ウィークタイズのネットワークを広げていく努力が、希望の持てる地域社会づくりには欠かせません」と筆者が主張する理由について、「ストロングタイズ」及び「ウィークタイズ」の語を用いての説明が求められる。特に「ストロングタイズ」と「ウィークタイズ」は、それ

ぞれ「幸福」と「希望」に関連することを読み解いてほしい。

よって評価のポイントは、地域社会づくりに「ストロングタイズ」と「ウィークタイズ」それぞれがどういった役割を果たすのか、その意味とともに説明できているかということになる。

問3

問3は要約問題と論述問題である。まず、「誰もが自分の命を守り、地域の希望をつなぐには、日頃からの緩やかな信頼関係をつくる地道な取り組みが欠かせません」と筆者が考える理由について説明するものである。前述の釜石市における震災の経験を要約することが求められる。

次に、地域に緩やかな信頼関係をつくる取り組みが求められる背景について考察し、3点述べることが求められる。筆者は釜石市における「津波てんでんこ」の伝承を引き合いに、「ストロングタイズ」が表現する強い関係だけでなく、「ウィークタイズ」が表現する弱い信頼関係が住民の命を守り、災害時の被害を最小限に食い止められたりすると述べる。また、「人口が減少する地域でも、すべての住民がお互いをよく知っているわけではないでしょう」とも述べている。緩やかな信頼関係が必要とされる背景とは、例えば、現在の地域社会における社会的な背景、本文の趣旨に添えば特に「ストロングタイズ」に表現される信頼関係の状況やその変化について、受験生のこれまでの見聞を踏まえ説明したい。

3 採点講評

問1

「幸福」と「希望」の両方について対比の構造を説明できないと、点数につながらなかった。

「幸福」は、「持続」「継続」「長く」「残ってほしい」「守り続けたい」等、「希望」は、「変化」「実現させたい」「困ったことを変えていく」「少しでも変えていきたい」等が説明のキーワードとして挙げられよう。

問2

問1と同様に、「ストロングタイズ」と「ウィークタイズ」の両方について対比の構造を説明できないと、点数につながらなかった。

「ストロングタイズ」は、「強い」「近い」「地縁・血縁」等をキーワードに「安心や幸福の源泉」となり、「ウィークタイズ」は、「弱い」「遠い」「たまに会う程度」等をキーワードに「気づきや希望の原動力」となるといった説明が必要である。

問3

問3は、前半部として内容読解（理解）を示す部分と、後半部として自己に引きつけてそれを考察することを問うものであった。

しかし、「なぜそれが求められるのか、その社会的な背景を述べる」という問いに応答せ

ず、「それがあるとどうなるのか」「その効用」を回答する、自分の感想や意見に終始した答案が多く、上記の因果関係を整理したうえで回答してほしかった。述べるべき背景について、個々が抱えるニーズを社会的な文脈に置き換えて論述する必要がある。

[前半部]

- ・下線部が示す部分の要約では、的確な該当箇所を見つけ出すことが必要であるが、その段落やキーワードを見つけられていない回答があった。
- ・的確な段落を見つけることができているものの、要約する際に、具体的な用語（東日本大震災など）を欠落させているため、災害時のウィークタイズとはやや離れた一般論を要約しているように見受けられた。
- ・課題文中の文章、文字を使用する際に、正確に書き写すことができていなかったり、異なる意味で使用していたりした。

[後半部]

- ・3つ挙げよ、という出題に対して、「第一に」「第二に」などと整理して論じていないために、実際は2つにしか言及していなかったり、どれが挙げたい3点であるかが分かりにくかったりする回答が多かった。
- ・キーワードは挙げられているものの、説明が的確ではない回答も散見された。

[前半部・後半部を通じて]

- ・前半と後半の境目を段落で分けることをしていないために、その違いが判然としない回答が見られた。
- ・小さい文字、判別しにくい文字があり、読みやすさに欠ける答案は避けたい。また、字数の指定は守られるべきである。
- ・出題内容を理解していることを採点者に示すには、本文中に出てくるキーワードを十二分に盛り込むことが肝要である。
- ・果たして出題の意図と合っているか、書き出す前に論じ方を見直すことで防げる言及不十分な回答例が少なくなかった。